

8/19/1 Links

Derwent WPIX

(c) 2005 Thomson Derwent. All rights reserved.

014150757 **Image available**

WPI Acc No: 2001-634976/200173

XRPX Acc No: N01-474803

Spray container, e.g. baby bottle, liquid-feed tube provided with holes on lower part, and rubber interposed between liquid-feed tube and extensive cylinder section of pouring mouth of bag

Patent Assignee: AMIYA S (AMUY-I)

Number of Countries: 001 Number of Patents: 001

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
JP 2001252599	A	20010918	JP 200066315	A	20000310	200173 B

Priority Applications (No Type Date): JP 200066315 A 20000310

Patent Details:

Patent No	Kind	Lan	Pg	Main IPC	Filing Notes
JP 2001252599	A	4		B05B-011/00	

Abstract (Basic): **JP 2001252599 A**

NOVELTY - Holes (4) are provided on the lower part of the liquid-feed tube (2) attached to a spray device (1). A rubber tube (7) is interposed between the liquid-feed tube and extensive cylinder section (6) of the pouring mouth of the bag (5) to seal the node (3) of the liquid-feed tube. A buffer (9) is attached in the cover (8) of the spray container in order to reinforce the bag and the pouring mouth of the bag.

USE - For e.g. liquid pesticide, liquid detergent.

ADVANTAGE - Can be used in reverse since air does not enter during use. Allows liquid detergent and softening agent to be measured from the frequency of use of trigger since air does not enter in any way. Ensures no failure in measurement since the trigger will stop returning if the liquid is used up.

DESCRIPTION OF DRAWING(S) - The figure shows a sectional view of the spray container. (Drawing includes non-English language text).

Spray device (1)

Liquid-feed tube (2)

Node (3)

Holes (4)

Bag (5)

Extensive cylinder section (6)

Rubber tube (7)

Cover (8)

Buffer (9)

pp; 4 DwgNo 1/6

(51)Int.Cl.⁷

B 05 B 11/00

B 65 D 83/76

識別記号

101

F I

B 05 B 11/00

B 65 D 83/00

テ-マ-ト (参考)

101Q 3E014

K

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 4 頁)

(21)出願番号

特願2000-66315(P2000-66315)

(22)出願日

平成12年3月10日 (2000.3.10)

(71)出願人 391011113

網矢 貞幸

愛媛県松山市高浜町6丁目1683番地

(72)発明者 網矢 貞幸

愛媛県松山市高浜町6丁目1683番地

Fターム(参考) 3E014 PA01 PB02 PB08 PC07 PD11

PE11 PF05 PF08

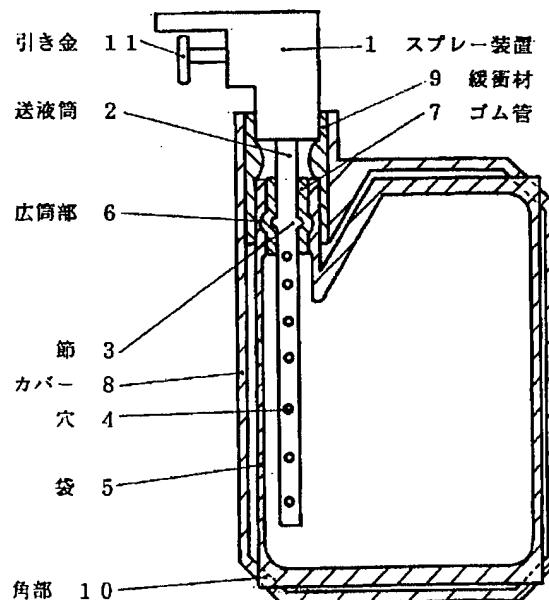
(54)【発明の名称】 スプレー容器

(57)【要約】

【課題】 従来のスプレーでは、殺虫剤や洗剤の液、または水を噴射させるには、送液筒の先端についている吸液口から吸液しなければ、噴射ノズルから噴射させることができず、逆さまでは噴射できなかった。

【解決手段】 スプレー装置(1)に送液筒(2)を取り付け、送液筒(2)には節(3)と、液体を吸い上げるために下部に多数の穴(4)を設ける。また、スプレー装置(1)を取り付けるために送液筒(2)に節

(3)を、袋(5)のそそぎ口の広筒部(6)がゴム管(7)を介在して、ゴム管(7)がシールしている。さらに、袋(5)を補強するためと、置くときに袋(5)では安定しないためカバー(8)を取り付け、カバー(8)は緩衝材(9)を取り付け、スプレー装置(1)と袋(5)の取り付け部を外から締め付け補強する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 スプレー装置（1）に送液筒（2）を取り付け、送液筒（2）には節（3）と、下部に多数の穴（4）を設ける。また、スプレー装置（1）を取り付けるために送液筒（2）の節（3）は、袋（5）のそぞぎ口の広筒部（6）がゴム管（7）を介在して密閉する。さらに、袋（5）を補強するためにカバー（8）と、また袋（5）のそぞぎ口も補強するため緩衝材（9）を取り付けたことを特徴とするスプレー容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、逆さにしてもスプレーできる手動式噴霧器で、また詰替用のパックをそのまま利用できる、スプレー容器に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来のスプレーでは、殺虫剤や洗剤の液体を噴射させるには、縦送液筒の先端に付いている吸液口から吸液しなければ、噴射ノズルから噴射させることができなかつた。そこで特開平10-99746の逆さにしても噴射できるスプレーのように、スプレーの縦送液筒の根本に穴部を設けることにより、スプレーを逆さにして使用したとき、ネジキャップ部に溜まった液を穴部より吸液し、噴射ノズルから噴射できるものがあつた。

【0003】その他、出願しているものの中に特開平11-59755のスプレー容器は、スプレーを傾けても、逆さに180度回転させても、中の液が残り少なくなつても、全量を使い切れるスプレー容器があつた。そのスプレー容器は中に圧縮した気体を入れ、スプレーのノズルに接続した液体を袋の中に入れ、吸い上げる管も液体の中に入れ、気体の圧力によって液体を噴射するもので、有害なフロンや可燃物のプロパンなどが不要になつた。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】従来の特開平10-99746の逆さにしても噴射できるスプレーは、スプレーの縦送液筒の根本に穴を開ければ空気が漏ることは分かり、表面張力で液体が止まると期待するのは無理がある。さらに、中の液体が残り少なくなつたときに、縦送液筒の先端の吸液口と、根本に付いた穴部の両方が、真横に倒すと液体に触れないときがあるので、噴射できなかつた。

【0005】また、特開平11-59755のスプレー容器は、スプレーを傾けても逆さに180度回転させても、中の液体が残り少なくなつても、全量を使い切れるスプレー容器があつたが、そのスプレー容器は詰替ができなかつた。

【0006】そこで本発明のスプレー容器は、詰替用パックのそぞぎ口にスプレー装置（1）を差し込み、それ

をカバー（8）で覆い、逆さにしても噴霧できるスプレー容器を提供するものである。

【0007】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するため本発明のスプレー容器は、スプレー装置（1）に送液筒（2）を取り付け、送液筒（2）には節（3）と、液体を何処からでも吸い上げるために下部に多数の穴（4）を設ける。また、スプレー装置（1）を取り付けるために送液筒（2）に節（3）と、袋（5）のそぞぎ口の広筒部（6）がゴム管（7）を介在して、ゴム管（7）がパッキンの代わりをしている。さらに、袋（5）を補強するためと、置くときに袋（5）では安定しないためカバー（8）を取り付け、カバー（8）は緩衝材（9）を取り付け、スプレー装置（1）と袋（5）のそぞぎ口の取り付け部を外から締め付け、液体が漏れないように補強することで目的を達成した。

【0008】

【発明の実施の形態】本発明のスプレー容器は、スプレー装置（1）の送液筒（2）にゴム管（7）を節（3）の上部に差し込んで、その送液筒（2）を袋（5）のそぞぎ口に挿入する。次に、ゴム管（7）と袋（5）を持って、スプレー装置（1）を引き抜くように引っ張つて、広筒部（6）に節（3）が来るまで圧入すると安定する。しかし、袋（5）のままでは置くのに不便なためカバー（8）を取り付け、スプレー装置（1）と袋（5）を固定するために緩衝材（9）を取り付ける。このような仕組みであるから液体は、どのような角度でも使用でき、また袋（5）の中に空気が入る心配がないで、一回の噴射量が固定できる。

【0009】

【実施例】以下、本発明の実施例について図面を参照して説明する。

（イ）取り付けかたを説明すると、図2は袋（5）のそぞぎ口を鉄で上部を切り取り、そこにスプレー装置（1）の送液筒（2）の下部から挿入する。そして図3は、いっぱい差し込んだところである。次に、図4はゴム管（7）と袋（5）を指で押させてスプレー装置（1）を上に引っ張り、送液筒（2）の節（3）はゴム管（7）の間に入り、袋（5）のそぞぎ口に設けた広筒部（6）まで引くと、多少広がっているため、そこに落ち着く。しかし、そぞぎ口がテーパーになっている袋（5）も同じく、同じような方法で取り付けられる。

【0010】（ロ）そして図1は、袋（5）では置くときにしっかりとしないので放置できない。また、袋（5）のそぞぎ口からの漏れを防ぐために、カバー（8）は二個に分かれ、そのカバー（8）の緩衝材（9）のスッポンジが、そぞぎ口を締め付け補強する。さらに、三カ所の角部（10）はカバー（8）の外に出て、三カ所の角部（10）を挟み込んで固定する。また、図5は外観を表した斜視図で、その図を見て分かる

とおり、カバー（8）から袋（5）の角部（10）が出ている。

【0011】(ハ) 以下、本発明の使用例を説明する。スプレーは、壁、天井など、色々な角度で使用するが、本発明の容器は袋（5）であるから、最後まで空気を噛むことがない。また、液体がなくなったときは、吸い上げる液体がなくなるので負圧がかかり、引き金（11）が元に戻らなくなるため、液体がなくなったことが分かる。

【0012】(ニ) 洗剤や柔軟剤などの液体は、1回のポンプの排出される量が決まっているので、計量容器より正確に計れる。したがって、1回引き金（11）を引くと小量、2回引き金（11）を引くと普通、3回引き金（11）を引くと多めの洗剤が出るようにしておくことで、使い分けができる。

【0013】(ホ) 図6の哺乳瓶などに使用すれば、乳頭（12）を乳幼児が口に加え、吸うと袋（5）に入ったミルクを吸うことができ、吸うのを止めると逆止弁

（13）が働き空気が混ざることがないので、乳幼児のゲップが少なくなる。また、従来の容器の中は、洗うときに手が入らないため完全に洗浄することが困難であったが、本発明の袋（5）は引つ繰り返して洗うことができる。さらに、ミルクをパック詰めにして販売すると、衛生的に量を間違えることがなく、簡単に使用できる。

【0014】

【発明の効果】本発明は以上説明したようにスプレー容器は、次のような効果がある。

(イ) タンクは袋でできているため、使用するときに空気が入らないため、逆さにしても使用できる。

(ロ) 今現在市販する詰替用パックを、そのまま使用できる。

(ハ) 絶対に空気が入らないので、スプレー装置に空気をかむことがない。

(ニ) 絶対に空気が入らないので、液体洗剤や柔軟剤は引き金を引く回数で計れる。

(ホ) 液体が無くなれば引き金が戻らなくなるので、計量の失敗が無い。

(ヘ) 哺乳瓶は、ミルクパックで販売できるため、容器を洗浄する手間がいらなくなったり。

【図面の簡単な説明】

【図1】図は、本発明の断面図である。

【図2】図は、袋にスプレー装置を取り付ける途中の断面図である。

【図3】図は、袋にスプレー装置を押し込んだところの断面図である。

【図4】図は、袋にスプレー装置を取り付けた断面図である。

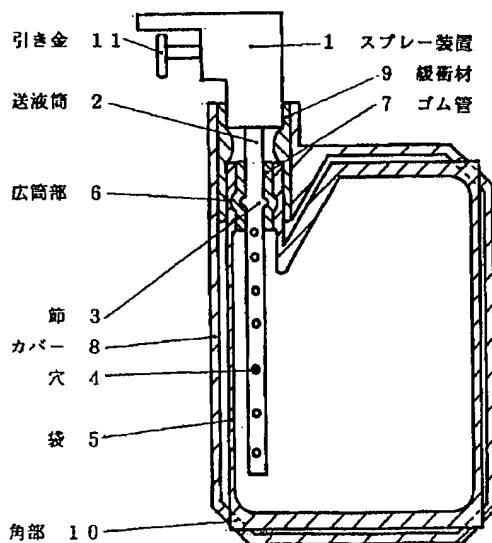
【図5】図は、本発明の斜視図である。

【図6】図は、実施例(ホ)の哺乳瓶の断面図である。

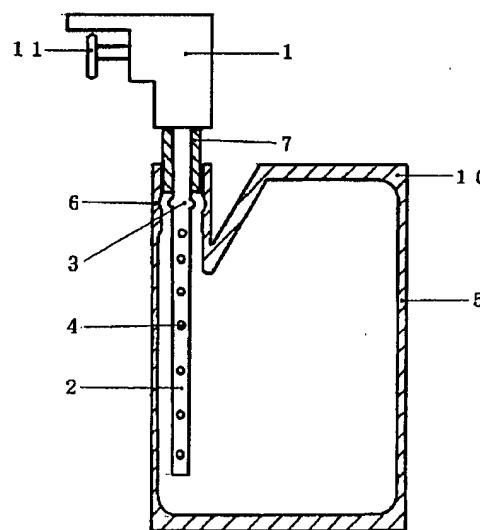
【符号の説明】

1 スプレー装置	2 送液筒
3 節	4 穴
5 袋	6 広筒部
7 ゴム管	8 カバー
9 緩衝材	10 角部
11 引き金	12 乳頭
13 逆止弁	14 空気穴

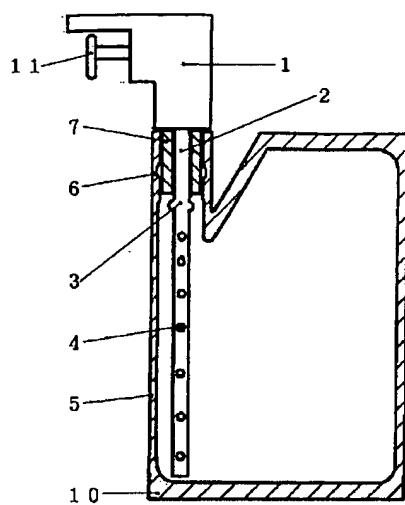
【図1】



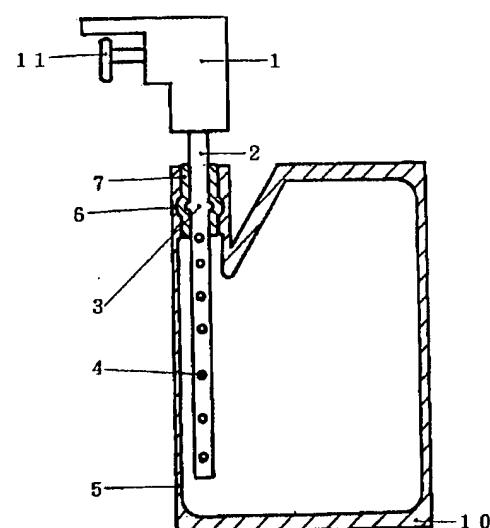
【図2】



【図3】



【図4】



【図5】

【図6】

